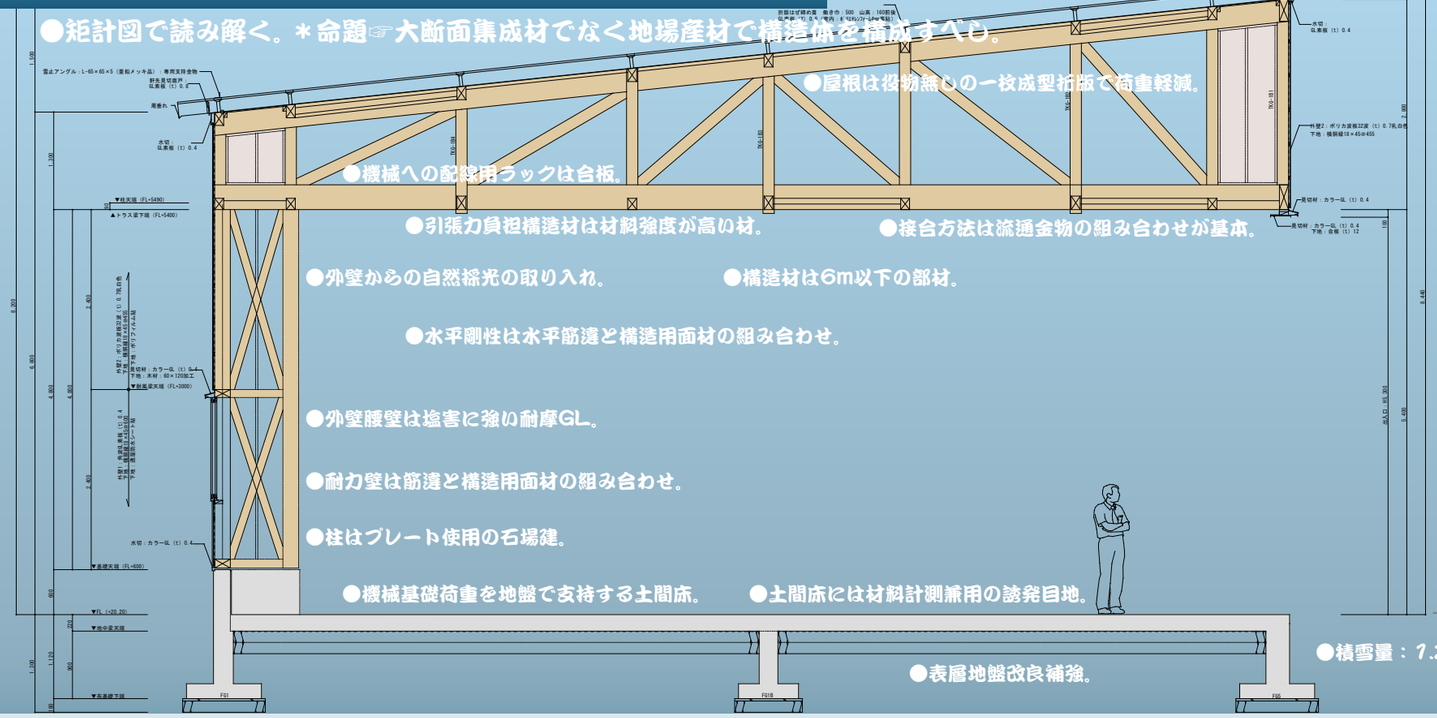
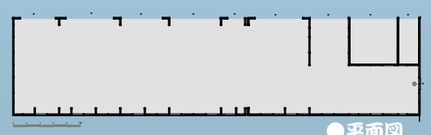
「希望の林業」に向かって。

地場産材が織りなす製材加工工場

●「いいものだ」と感じられる意識へと。。
国民ひとりひとりが変えていかなければ。
大量生産された安価な物に飛びつく安易な行動は、見えない付加価値さえも否定してしまうのでは？ひとが育てる想いも一緒に。



●江戸時代の製材方法？



●平面図

●立面図

工場は合理的に作業が行える機能空間。
そこには必然的な構造デザインが生まれる。

林業に携わるひとたちの想い。その林業を見守り続ける施設が生まれる。

林業には未来はあるということ。世の中に問いかけ続けたい。「建物」という力を借りて。

☞構造体が幾何学模様を生み出す。

内部への採光とともに構造体が見えてる。☞

☞伐採された原木。

●みえない価値を感ずるひとが育ちますように。

●森林に携わるひとたちの想いとその林業を見守る施設の中で様々なことを体感できること。子供たちをはじめ一般の人たちの感性を上げていける場所であることに期待したい。

☞山の神々様への御祈りと御願い。

●自給自足的な地域共同体の実践の場として。また環境教育の場として工場の果たす役割はあるはず。

●子供たちが森林に囲まれて育つ地域共同体の施設でありますように。

☞原木から製材へ。

●建築設計者には「山主の声」と「建て主の声」をお互いに知らせる役割がある。「近くの山の木で家をつくる」ことに共感できるには、お互いを立場を理解するところから始まる。

●地域に根ざした活動をしているのかと自問する場合がある。建築設計者の必要な職能として地域とのコミュニティや信頼を確立すること。そこには地域社会への終わりのない奉仕の強い精神が必要だと感じる。